

畜産酪農技術センター機関評価表

令和4年8月26日(金)

畜産酪農技術センター機関評価委員会

評価項目	評価点	コメント
1 組織管理	4.6/5	5年前に畜産試験場と酪農試験場が統合し、新たな組織となった。統合当初は混乱も生じたと思うが、現在では円滑な運営がなされていると考えます。
2 事業内容及び予算配分	4.0/5	山梨県の畜産振興のために、限られた資金を有効に活用されていると考えます。特に、職員は県費を使って研究しているため、成果を県内の畜産農家に返す必要があるという自覚があります。
3 施設の整備状況	2.6/5	老朽化が進む施設や研究設備が多く見られます。今日、労働安全衛生や労働災害防止の強い指導があります。災害発生を予防するためにも、優先順位を付けて施設を改修して下さい。改修にあたっては、ビニールハウス畜舎のような費用の安い物も候補になり、実際の使用感を県内農家に情報提供することも重要です。
4 研究事業の成果	4.6/5	山梨県はアニマルウェルフェア研究では先導的な立場であり、さらに甲州ビーフや富士桜ポークといったブランドを維持している。こうした山梨県ブランドを高める研究を実施し、研究成果を山梨県に還元できている。
5 普及啓発活動	3.8/5	研究課題の設定に際し、畜産農家からのニーズを、もう少し幅広に聞いた方が良いのではないかと。畜産農家が欲する研究をおこなうことが、普及にもつながると考えます。また、成果発表会やホームページでの公開もしっかり実施しており、この点は評価できる。相手が来るのを待つのではなく、研究職員が畜産農家に出向いて成果を説明した方が良い場合もあります。

総合評価	4.0/5	限られた運営費の中で、山梨県の畜産振興に貢献する研究課題を遂行していることを高く評価します。研究課題の設定には、現場の声をさらに反映できるような工夫をすると、尚、良いと考えます。
------	-------	---

「注」 評価点の目安

評価	良好	やや良好	普通	やや不十分	不十分
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

- ・労働安全衛生や労働災害防止の観点から施設の老朽化への対応を行うべきとの意見を受けて、適宜予算要求をしていきたいと考えます。施設の改修にあたっては、経費の安い畜舎なども検討し、農家レベルので実用性の高い施設も視野に入れて検討します。また備品の適切な更新、購入についても予算要求を行うこととします。
- ・試験研究課題の設定にあたっては、各種団体からの要請事項だけでなく、研究員それぞれが(農家と接触する)あらゆる機会を通して農家ニーズを把握するように努めるとともに、センターが主催する農業代表者会議等での意見も参考にしながら適切に設定していくこととします。
- ・また試験研究については引き続き成果を出せるよう綿密な計画を立てて実施していくこととし、普及啓発については普及組織と連携してより多くの農家に技術の普及ができるように努めるとともに、農家とのマッチングが可能な成果については、研究員自らが積極的に農家に向いて成果を説明するなどの工夫をしていきます。